

第62回いそご文化資源発掘隊

横浜芸者が伝える 関東大震災から100年の物語

開催日／2023年9月1日（金）

開催時間／14:00～16:30

会場／杉田劇場5階 ホール

参加者／125名

出演者／横浜芸妓組合の芸者ほか

構成・演出／加藤俊彦

チケット／2,000円（全席指定）

第1部

加藤 今日には関東大震災から100年の日ということで、先ほど11時58分に芸者衆と共に黙とうをさせていただきました。

今日は、開港から震災までの期間もあわせて語らなければいけないと思い、第1部では「磯子小唄」、「野毛山節」をお聴きいただきます。



この「野毛山節」ですが、「♪鉄砲かっついでノーエ～」とか「♪オッピキヒヤラリコ、ノーエ～」とかいう歌詞があります。開港後、横浜に入って来た外国の軍隊が調練をしている風景を歌ったもので、これは何かというと、オッピキヒヤラリコというのはラッパの音なんです。向こうもこっちのチョンマゲを見て「何

だあれは」と言っているんですね。

この「野毛山節」は外国の軍隊をおちよくっているのですが、富士山の方へ行くと、「富士の白雪あノーエ」と綺麗な歌詞になっています。（三島の農兵節）

https://www.city.mishima.shizuoka.jp/kanko_content000192.html

むかしはCDもインターネットもないから、流行歌を残すには同じ旋律の替え歌であちこちに残していったわけです。

もう一曲は「磯子小唄」で、昭和初期につくられたご当地ソングです。

なんとか小唄というのがあちこちにありました。たとえば「平塚小唄」。

平塚小唄

<https://www.youtube.com/watch?v=fkNVjSd3FJ0>

関東大震災から復興して、「さあ、皆さん遊びに来てくださいね～」という感じの歌なのです。「磯子小唄」も同じですね。

この曲は町田嘉章という大作曲家が作っており、歌詞には「磯子通りは二筋道よ 聴くは三筋の 弦の音を 弦の音を～」という情景が描かれています。二筋道とというのは「浜」から旧道と当時の県道（現16号線）に分かれる二つの道を歌っているのです。三筋とというのは三味線のこと。「浜」から「芦名橋」にかけて花街があり芸者衆が大勢いたのでその情景でしょう。

<https://www.google.co.jp/maps/@35.4117087,139.6227568,18.91z?hl=ja&entry=ttu>

さて、ふつう講座というと、先生が出てきて画像を見ながら説明していくという形が一般的ですが、横浜芸者はそうではなく、劇仕立てでやっぴいこうと考えました。芸者衆はいろんなことをやっぴいます。

先日はピンクレディーをやりました。今日ご覧になって、「こんなことをやっぴしてほしい」ということを思っぴいたら、なんでもいいのでアンケートにお書きください。無謀な挑戦でも何でもやるっぴというのが、芸者の面白さなんです。

今回の演奏では三味線だけではなくお琴を入れます。新バージョンです。いろんなバージョンで残していくっぴというのが、古典をやっぴていくなかで大事なことだと思っぴます。今やっぴている曲が飽きちゃったから捨てるっぴというのではなく、飽きないようになんかのを入れたらいいんじゃないかと、変えてやっぴていくことが重要なのです。

***** 開幕 *****



磯子小唄の演奏と踊り

演奏

琴 (崑八)・三味線 (和か)・太鼓 (由か)・唄 (美か)・篠笛 (ことり)

踊り

楓・富久丸・かでん・結月

磯子小唄

磯子恋しや 忘れてならか
月はおぼろの 春の海 春の海
よいよいよいよい よいながめ

磯子浜辺に 友呼ぶ千鳥
遠くから来て 近まさり 近まさり
よいよいよいよい よい殿御

磯子通ひの 自動車止めて
乗ったがゑにしのもつれ髪 もつれ髪
よいよいよいよい よい御見

磯子泊りに 嬉しい一夜
あかしていわれぬ 胸の内 胸の内
よいよいよいよい よい口舌

磯子通りは 二筋道よ
聴くは 三筋の 絃の音を 絃の音を
よいよいよいよい よい音

磯子小山に 雉子なく声は
誰が泣かせて ほろろ打つ ほろろ打つ
よいよいよいよい よい朝

磯子観音 心願こめて
お礼詣りの 二人づれ 二人づれ
よいよいよいよい よい御利生

磯子栄えて まだまだ栄え
続く軒端の 花紅葉 花紅葉
よいよいよいよい よい景色



野毛山節の演奏と踊り

〰野毛の山からノーエ
野毛の山からノーエ
野毛のサイサイ
山から異人館を見れば

〰鉄砲かついでノーエ
鉄砲かついでノーエ
お鉄砲 サイサイ
かついで 小隊進め

福久丸 みなさん、こんにちは～。横浜福久丸でございます。どうもありがとうございます。

今回はお琴を入れて、より華やかに磯子小唄を演奏してみました。昔のお姐さん方も、大事に伝えるために、新しい楽器を取り入れたり、リズムを変えたりして、常に新鮮さを求めていたと聞いております。



さて、続いての曲は「復興小唄 濱自慢」です。

開港当時の横浜で外国との貿易が始まりましたが、長いこと鎖国をしていたため何が売れるのか分からなかったし、外国の方も日本人が何を買ってくれるのか分かりませんでした。

そんな中で、あるイギリス人が生糸を買ってくれたところから、空前のシルクブームがやってきました。貿易がうまくいき港が栄えると、花街も発展。英語が話せる、社交ダンスが踊れる、西洋楽器が弾ける、様々な芸者が台頭してきました。

外国の方は日本に移住し、横浜はどんどん発展していきましたが、そんな中で関東大震災が起きてしまいました。

大きな津波、大火災などのため外国の方々はどんどん撤退してしまいます。そして貿易が難しくなった時に立ち上がったのが、三溪園で有名な原三溪さんでした。

震災後、彼は芸者のために「復興小唄 濱自慢」という歌を作りました。この曲は横浜の四季を歌った曲で、横浜を観光名所にしたいという考えが現代にも伝わっています。

そんな「濱自慢」、戦後は原盤が行方不明になっていましたが、2011年の東日本大震災の時に発見され、原三溪さんが大震災から人々を守る力強さを感じさせる曲として話題になりました。

そして今回は、杉田劇場のスタッフの好意で特別に三溪園から許可を頂き、この原盤を使って「春」「夏」を踊ることができるようになりました。戦後、このような機会を得たという情報がないので、戦後初の企画でしょう。

そして「秋」「冬」を現代の横浜芸者が演奏いたします。原盤と生演奏を通して、震災から100年を乗り越えてきた横浜芸者の力強さや、文化芸術を感じていただけたらと思います。

それではお楽しみください。

「復興小唄 濱自慢」の演奏と踊り
「春・夏」は原盤をバックに踊る。
「秋・冬」は横浜芸者の演奏をバックに踊る。



「復興小唄 濱自慢」の春・夏を原盤を流しながら舞う横浜芸者。



秋・冬を生演奏のバックで踊る横浜芸者。

こちらの生演奏では三味線の他に、篠笛、太鼓、オーシャンドラム、琴が参加。オーシャンドラムとは、平べったい太鼓の中によく転がる小さな粒が入っており、楽器を傾けることによって波のような音を出す擬音楽器。

〽横浜よいところじゃえ
太平洋の春がすみ
わしが待つ舟あすつくと
沖のかもめがきてしらす

〽横浜よいところじゃえ
青葉若葉の町つづき
屏風ヶ浦の朝なぎに
富士がめざめて化粧する

ことり ありがとうございます。私は横浜ことりと申します。どうぞよろしくお願いたします。

お聴きいただいた「濱自慢」ですが、最初の春・夏の踊りでかけた音源のは、三味線が一人という演奏でした。それに対して秋と冬を演奏させていただいた現代のバージョンは楽器も増えて華やかになっております。私はどちらも好きですが、原盤にあこがれながら現代のバージョンを演奏させていただいております。

実はこの原盤とは別にレコードも残っており、原盤とはちょっとメロディーが

違うんですね。芸者衆もどっちが好きかで歌い方が分かります。その違いの聴き比べを次回の公演でやってみたいと思っています。



さて、次の曲は「夏は蛍」です。地唄舞とか上方舞と言われる、まるでお能のようなきれいな旋律を付けた曲で、京都の芸子さんたちが好んで踊る曲です。

地唄舞には、「黒髪」という名曲があります。好きな人を思ううちに夜が更けて、お寺の鐘が鳴る頃には雪が降り、雪と共に好きな人への思いが積もるといったような内容です。

これからお聴きいただく「夏は蛍」はその夏バージョンとだけ思っていたらいいです。

夏は夜が短くてすぐ朝になってしまいます。なので朝になっても泣き通すという内容になっています。

今回はそんな意味を無視して、蛍に目を向けてみました。蛍は短歌にもよく出てきますが、蛍はご先祖様や、その場所で死んでしまった人の霊が彷徨っているという意味で使われることが多いようです。

また金属音は、あの世でいちばん聴きやすい音として、仏壇の鐘や神社の巫女さんが振る鈴など、さまざまな所で活躍します。夏の風鈴もお盆の時期に、ご先祖様に自分の家の場所を教えている等、風情有ります。

百年前の大震災で亡くなった方々に心

を込めて、横浜芸妓組合代表の横浜福久丸が「夏は蛍」を舞います。



踊り：横浜福久丸 三味線：横浜崧八



夏は蛍の 灯火に 短き夜半を
くよくよと 泣き明かしたる
ほととぎす 仰げば顔に ばらばらと
あれ村雨が 袖打ち振りて
よいよい よいよい よいやさ

ことり どうもありがとうございます。
「夏は蛍」いかがだったでしょうか。
芸者衆、基本的には細い棹の三味線を使う端唄、小唄といったジャンルの音楽をやっていますが、崧八の専門は地唄でございます。三味線も他の芸者と違って中棹というのを使っております。

三味線の豆知識

<https://www.mukouyama.jp/sao.html>

さて、流行り病を乗り越えてきた文化についてご紹介したいと思います。

暴れん坊将軍で有名な8代将軍の徳川吉宗の頃、コレラが流行り、景気づけに始めたのが両国の花火。現代の隅田川の花火ですね。上流を「玉屋」が、下流を「鍵屋」が運営を担っていました。上流から上がれば「たまや〜」と、下流から上がれば「かぎや〜」と掛け声をかけて盛り上がりました。

実は、玉屋は35年目に火災を出して追放されているのですが、その史実はあまり知られていません。ですが、いまだに花火が上がれば「たまや〜」ですから当時は相当な人気があったのでしょうか。

そんな花火を愛でる名曲「上汐」、そして「夏祭宝獅子」を続けてお楽しみください。



横浜楓の「上汐」

「上汐」

踊り：楓 三味線：崧八
囃子：和か・美か・由か

続いて「夏祭宝獅子」。
演奏は同じメンバーで。



横浜かでん、男役で登場。

今日はここ、ひばり神社で夏祭りがあるというので、最近入った新人芸者の可愛い叶雪（かなゆき）ちゃんを夏祭りのデートに誘いたいと思います。



そこに叶雪ちゃん現れる。



かでんは綿アメやかき氷で叶雪ちゃんを誘うが、彼女は誘いを拒む。
さらにしつこく誘っていると…



男役になった楓お兄さんが来た。かでんが叶雪ちゃんをしつこく誘っていることを聞いた楓お兄さんは、かでんに対して金魚すくいでの勝負を挑む。



しかし、楓お兄さんの金魚すくいポイはしっかりした物なのに対し、かでんが持たされたのは輪っかだけのポイ。これでは勝負にならず、かでんは退散。



ここで、いきなり美空ひばりの「お祭りマンボ」がかかり、二人で踊る。

旧杉田劇場で初舞台を踏んだ美空ひばり。その劇場の名を愛称とした磯子区民文化センター杉田劇場の舞台上、横浜芸者がひばりの歌をバックに踊るという面白い演出だった。

歌い終わると音楽は一気にお囃子の生演奏が始まる。そこに飛び出してきたのはお獅子だ。

しばらく獅子舞を踊っていると…



楓お兄さんと叶雪ちゃんが再び登場。しばらくして、お獅子をからかっているうちに、いつの間にかお囃子は子守歌に変わり、お獅子は眠ってしまう。

二人はお獅子を起こそうとするが、怖くて近寄れず逃げてしまう。

そこに、かでんが戻ってきて、楓お兄さんが捨てていったポイを使ってお獅子を起こすと、突然、大黒天が現れた。

関東大震災から100年、杉田劇場に来られた観客の皆さんと共に、その復興を祝う口上を述べる。

すると、いきなりお囃子が始まり、舞台袖から楓、かでん、叶雪の3人も現れて、舞台から客席に向かってキャンデーを投げ込む。



第2部

横浜芸者が伝える

関東大震災から100年の物語

これまでの「いそご文化資源発掘隊」では、あるテーマについて講師が解説をしていくというスタイルが多かったのだが、今回は芸者衆が自分たちでこんな企画を考えて、舞台を作り上げていった。

関東大震災とその前後の状況などをテレビの情報番組風にして、現地との中継を交えて解説するという面白い番組となった。

使用した写真は横浜市中央図書館や磯子図書館が所蔵しているもので、両館から許可を頂いて投影することができた。



叶雪 こんにちは！ 横浜芸者が横浜を紹介する番組、「横浜芸妓組合TV」のお時間です。アナウンサーは新人芸者の叶雪です。どうぞよろしくお願ひいたします。

楓 新人アナウンサーなんだから、すごいね。そんな私はゲストの楓です。よろしくお願ひしま〜す。

かでん お爺ちゃんが大好きで横浜芸者になった「かでん」です。今日はコメンテーターとしてやって来ました。

叶雪 さて、今日は関東大震災から100年経ちました。

1923年9月1日午前11時58分に起こった激震で建物が倒壊、そのあとの火災で、横浜は壊滅状態になりました。



叶雪 これは被災した横浜駅です。

楓・かでん うわ〜、ひどい〜。

叶雪 今の横浜駅は三代目で、初代は桜木町に、二代目は高島町にありました。二代目は1915年に造られたのですが、わずか8年で倒壊してしまいました。

楓 ひど〜い（涙）

叶雪 初代横浜駅は桜木町にあったのですが、そこから関西方面に行くには、先に進むのが難しかったので、スイッチバックしてから西に向かっていたんです。

しかし、これでは不便だなということで、高島町に二代目が、そして震災後、現在の場所に三代目が建てられました。



さて、こちらは横浜市役所です。外観は残りましたが、内部は完全に燃えてしまいました。

そこで、ゲストの楓お姐さんにお聞きします。この建物、この後どういう処理をしたのでしょうか。

楓 楓が大きなくしゃみをして壊した。

全員 ……

叶雪 正解は爆破で壊しました。

楓 すごいですねえ〜

叶雪 次にご覧いただくのは仮市役所となった中央職業紹介所です。



ここで市議会が開催されたそうです。この建物は桜木町駅の横に、昭和50年代まで残っていたので、懐かしく思われる方もいらっしゃるのでは。



楓 こちらの写真は半壊した高架線から写したのですが、左端にあの特徴的な三角の屋根が見えていますね。

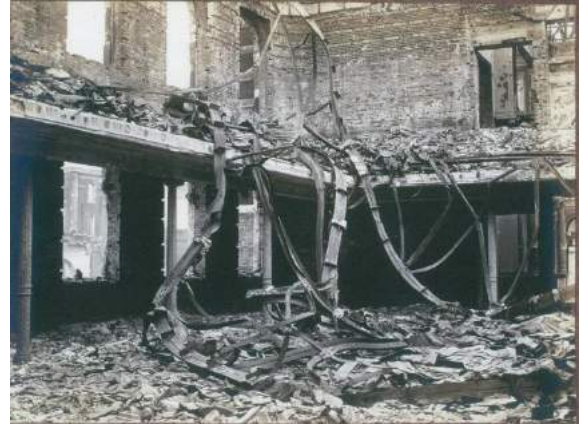
この写真はロビーに貼ってありますので、お帰りの際にご覧いただければと思います。



叶雪 これは壊滅してしまったジャックこと、開港記念会館です。

開港50周年を記念して大正6年に建てられ、これまで開港記念横浜会館として使われていました。

地震の揺れにはビクともしなかったのですが、内部に入った火により燃え落ちてしまいました。



楓・かでん うわ〜。ひどいことに…鉄が溶ける温度だったんですね。床は抜け落ちているし、内部は全滅ですね。



叶雪 かつて、花街として栄えていた磯子。海辺には「偕楽園」という高級料亭がありました。

かでん ああ、これね。戦時中は海軍指定の料亭だったんですね。

ちなみに、海軍指定旅館という金沢園もありましたが、こちらは現在、カフェとして営業しています。

話がそれました。

ここ偕楽園は海軍指定の料亭だったことで、戦時中から大量のお酒などが、向かい側の崖地に掘られたトンネル内に貯蔵されていました。戦後、それらが出てきたということが知られています。

また、ここは芸者の養成所でもあり、古来の芸ごとの他にお茶やお花なども教えていました。

楓 料亭であると同時に、芸者の学校みたいな所だったのね。



叶雪 これは百畳の大座敷です。

楓 おお～、すごいですねえ～。私たちもこんな所で踊ってみたいですね。

昔の芸者さんはこんなところでお座敷をして、いい旦那さんを見つけて、ここで結婚式をしていた…なんてね。

叶雪 そんな素敵な偕楽園なのですが、こちらの写真をご覧ください。



叶雪 これは海側から見た偕楽園です。これをご覧になってどう思いますか。

楓 すぐ傍まで迫っている崖がむき出しですよね。今だったらコンクリートで固めるとかして、絶対に土砂崩れが起きないようにしますよね。

かでん 地層マニアにはいいかもしれませんが、ちょっと怖いですね。



叶雪 これは昔と今を比較できる地図です。現在は埋立が行われているので正確な位置は分かりませんが、こんな感じだと思います。



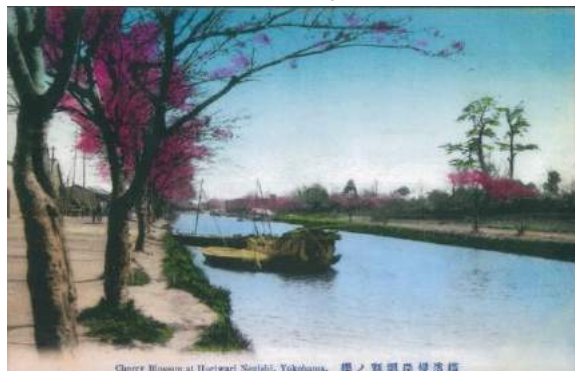
叶雪 崖崩れに襲われた偕楽園では男性11名と女性10名、合わせて21名が亡くなっています。

これは金蔵院の中に建っている大震災横死者の碑です。

裏に亡くなった方々の名前が彫られているのですが、11名の男女しか確認できません。なぜ11名なのか、情報を知っている方を探しています。

偕楽園は根岸湾の埋め立てが始まったことにより、昭和43年に廃業してしまいました。

さて、次の写真です。



横濱根岸堀割の櫻



横濱根岸堀割の櫻

叶雪 これは震災前の堀割川と桜を描いた絵葉書です。

かでん あ～、楓お姐さんがいま～す。

楓 しゃがんでいるのが、かでんちゃんね。昔はああいう姉妹の芸者がいたんでしょね。



叶雪 これは震災復興で造られた物揚場です。天神橋の上流にあります。

かでん 昔は大きな船が港に入ると、小さな船にその荷物を積み込み、川を遡ってこういう物揚場で下ろしていたんですね。

今はコンテナを積んだ船が来て、それを車で運ぶようになったので、川の文化から陸の文化に変わっていったということが言えます。

楓 この物揚場は天神様へ行く天神橋の近くに現在も残っています。



叶雪 天神様といえば、磯子には芸者や料亭の人たちが通っていた、別名「色天神」と言われた岡村天満宮があります。

楓・かでん きれいねえ～。



叶雪 こちらの写真は、関東大震災で倒壊してしまった岡村天満宮です。

楓 正面の屋根が崩れた建物が社殿で、右端に写っているのが神楽殿です。手前の柱状のものは鳥居ですね。



叶雪 天満宮の敷地内には、いろいろな石碑が残っています。これはそのうちの一つで、寄付をした料亭などの名前がたくさん彫られています。



楓 こういうのは私たち、現場で見えていますよね。

かでん なぜならば、JRのポスターを作るために、こちらへ撮影に行っているのよね。

楓 ピンクが楓、青は新人だった

「浜っ子ちゃん」のかでん。

叶雪 八幡神社といえば、八幡橋の際にある八幡橋八幡神社。



この神社には謎の物体があります。



境内には御大典記念の石碑が建っています。その上部に謎の球体が乗っているのですが、これが何なのかは不明です。

その碑の下部に「磯子二業組合・芸妓組合」の名が彫られています。

私も昨日、見に行ったのですが、この球体が何のために使われていたのか、ご存じの方いらっしゃいますか。



叶雪 さて、こちらは震災で被害を受けた横浜刑務所です。

楓 うわ～！ 跡形もない。倒壊していますねえ。

かでん 手前に写っているのは、壊れたレンガ塀でしょうかね。

叶雪 この刑務所にまつわるこんなエピソードもあるんです。

椎名所長は、千人近い囚人たちが自分の家族などの安否確認をできるように、周囲の反対を押し切って、24時間以内に帰還することを条件に解放するという決断を下したのです。

ここでまた質問です。この千人近い囚人は、その後どうなったと思いますか。

楓 普通に考えたら逃亡しちゃったんじゃないですか。

叶雪 正解は…よその刑務所や警察署に出頭した囚人を含めると、ほぼ全員が戻って来たそうです。

楓 へえ～。所長と囚人という関係だけではなく、普段から「人と人と」いう信頼関係が築けていたからこそ、戻ってきたと言えるのではないのでしょうか。

かでん いい所長だったんですね。ちなみに次の写真を見てください。



堀割川と桜が描かれた絵葉書ですが、向こう側に赤いレンガの壁が写っています。

赤い矢印の部分が刑務所で、塀がずっと続いていますね。

楓 へえ。(ダジャレかな)

叶雪 今日は、そんな刑務所に所縁のある場所と中継がつながっています。



叶雪 市花 (いちか) さ～ん！

市花 はい、現地レポーターの市花です。私は今、港南区の総合庁舎にきています。区役所や消防署が入っているのですが、なぜこちらにきているのかといいますと、この銘板に秘密があります。



市花 当時の刑務所の壁はレンガ造りでしたが、震災で欠片となってしまいました。それが、このフェンスに練りこまれているのです。



市花 裏に解説文もあります。「関東大震災で発生した煉瓦礫を用いて建設された」と書いてあります。

百年前の歴史が、今もこうしてうかがうことができますね。港南区にお越しの際は是非、みなさまも足を運んでみてください。

現場からは以上です。それではスタジオにお戻しします。

叶雪 市花お姐さん、ありがとうございました。

百年前に刑務所が起こした奇跡が今もこうして横浜を見守っているんですね。

さて、震災から百年の歴史を無形で伝えているのが、原三溪が作詞した「復興小唄 濱自慢」です。



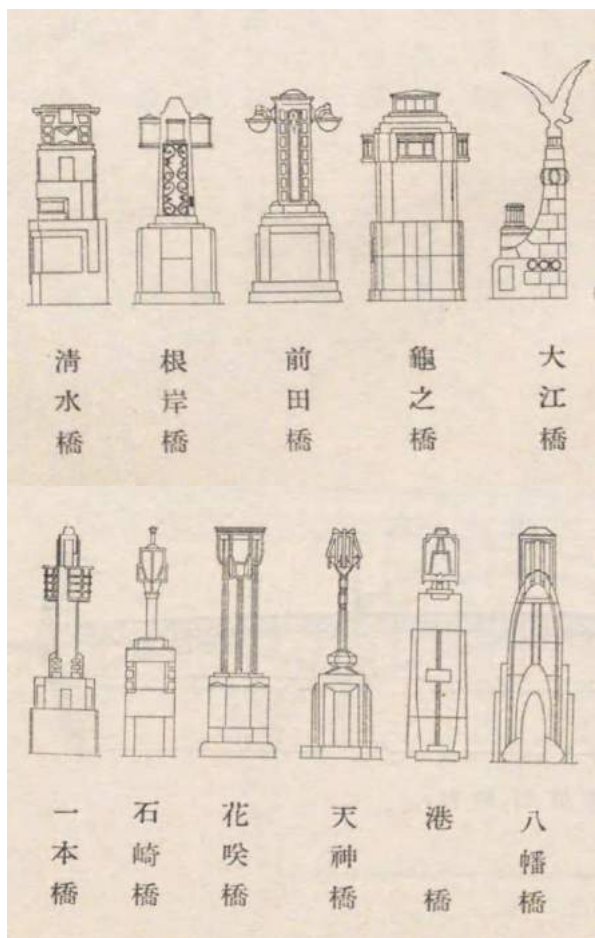
復興記念横浜大博覧会 (絵葉書)

そして、有形で復興を伝えているのが震災復興橋です。



短い期間で多くの橋を造らなければならない場合、標準的なパターンで、どこにでも同じような橋が建設されることが多いと思います。

しかし、震災復興橋はそれぞれの個性が出るよう、親柱や高欄に独特のデザインを取り入れているのです。



かでん 戦時中の話ですが、これは字が読めない子どもたちが目印にするくらい特徴的なものです。

関東大震災ですべての橋が落ちたり焼けたりしたわけではなく、私の祖父は吉田橋をよく待ち合わせ場所に使っていたそうです。

楓 震災でも崩れなかったのね。

叶雪 さて、たった今、取材班が次の現場に到着したという報告が入りました。

現場の市花お姐さん、どうでしょうか。



市花 ここは石川町駅から徒歩10分ほどのところにある打越橋です。

ここ一帯を切通しにして、横浜駅根岸線（道路）や市電を通しましたが、そのせいで分断されてしまった丘に架けられたのが、この打越橋です。

参考：<https://00m.in/NQkF5>

切通で発生した土砂は、山下公園の造成にも使われているそうです。

もうひとつ、近いところに復興橋があるのでご紹介したいと思います。



こちらは同じ石川町駅から徒歩7分ほどのところにある桜道橋です。

本牧通りの切通しとなった部分に架けられた橋です。先ほどの打越橋は現代的なデザインでしたが、こちらは打って変わって、石張りのデザインとなっています。

景観にも気を配られ、風格があり歴史的な佇まいを感じさせます。当時の設計者の意気込みがすごかったことが分かりますね。

では、スタジオにお戻ししま〜す。

叶雪 ふだんの「いそご文化資源発掘隊」では専門家の方が講演を行っていると思いますが、我々は子どもから大人まで、分かりやすく伝えることをモットーに発表してまいりました。

以上YGK TVでした。



このあと舞台転換の時間を利用して、横浜和かによる篠笛の演奏が行われた。

和か 皆さま、1部と2部はお楽しみいただけましたでしょうか。今、3部に向けて舞台の準備中なので、その間に笛の演奏をお聴きいただこうと思います。

美空ひばりの曲などをメドレーにしてみましたので、お楽しみください。



曲目

- ・りんご追分（美空ひばり）
- ・真っ赤な太陽（美空ひばり）
- ・栄光の架橋（ゆず）
- ・熱き星たちよ（ベイスターズ応援歌）

第3部

横浜芸者コンサート



美か みなさん、こんにちは！ 横浜美かです。本日の震災から百年の物語、いかがでしたでしょうか。（拍手）

ありがとうございました。これから聴いていただく横浜芸者コンサートでは、

震災より前の曲を中心にお聴きいただきます。

まず1曲目は「赤い靴」です。私、横浜美かが、崑八の琴の演奏で歌います。



続いて「青い目の人形」をお聴きいただこうと思います。

1920年代にアメリカから親善を目的に贈られてきた人形がありました。アメリカに連れて行かれた赤い靴を履いてた女の子と同じように、心細かったのかなと思わせてくれる童謡です。

この曲は私と崑八（琴）、和か（篠笛）、ことり（フルート）でお送りいたします。



美か 続いて最後の曲となります。

「横浜ホンキートンクブルース」。こちらはもう一人加えて5人で演奏します。

ドラムの有かさ〜ん。（和かさんは篠笛から三味線に持ち替えです）



ホンキートンクブルースでは「飯を食うならオリジナル・ジョーズ」という歌

詞があるのだが、そこを「ショーを観るなら杉田劇場」という風に言い換えていた。

最後は全員が登場して「かっぼれ」を踊る。



フルート：ことり

三味線：崑八

ドラム：美か

チャンチキ：有か

篠笛：和か

踊り：福久丸、楓、かでん、叶雪

獅子舞：ゆうた

加藤 開港当時の芸者衆は、社交ダンスを踊ったり、和洋の楽器を使って演奏したりしていたそうなので、こんな光景だったんでしょうね。

それでは、全員でかっぼれ～！

【了】

